

# 旧渋沢邸『中の家』

## リニューアルオープン!

『中の家』へようこそ!



渋沢栄一翁の生地である旧渋沢邸『中の家』が、主屋の耐震補強と改修の工事を終了し、8月10日(休)にリニューアルオープンします。

今月の特集では、これからも後世に歴史的建造物としての価値や渋沢栄一翁の功績を継承していく、旧渋沢邸『中の家』について紹介します。



4つのオブジェに手をかざしてみよう!

栄一翁が、それぞれのオブジェにちなんだ思い出話をしてくれるよ

論語から学ぶ人生



7歳から学んでいた『論語』について語ります。話し相手には幼少期の栄一君も登場?

商いのこころ



『中の家』の家業である『藍玉』の製造・販売を通して学んだことを語ります。

ふるさと仲間たち



共に人生を支え合った血洗島の仲間たちを紹介します。

ふるさとから世界へ



フランスなどで目にして衝撃を受けたさまざまな出来事を回想します。

新たに整備された『渋沢栄一アンドロイド・シアター』。『中の家』『渋沢栄一記念館』ともに、渋沢栄一アンドロイドは、(株)トールコーヒー 名誉会長 鳥羽博道氏からの寄附により制作しました。

を組み合わせて、栄一翁の世界に浸ることのできる『渋沢栄一アンドロイド・シアター』(上記写真)です。

コンセプトは、『帰郷して和服でくつろぐ80歳代の栄一翁から、ふるさと血洗島や仲間との思い出を聞く』。映像を交えながら栄一翁の話聞くことで、より深く、『中の家』そして栄一翁のふるさとを体験できます。

このように、新しい『中の家』は、栄一翁を身近に感じ楽しみながら学ぶことができる施設となっています。ぜひ、栄一翁のいる『中

8月10日(休)午後1時 OPEN!  
**旧渋沢邸『中の家』開館情報**  
 所在地 血洗島 247-1  
 開館時間 午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)  
 ※8月10日(休)は午後1時から開館  
 ※団体見学は9月1日(金)から受け入れ(事前予約制)  
 休館日 12月29日～1月3日  
 問い合わせ 渋沢栄一記念館 ☎587-1100

の家』へ遊びに行ってみてください。主屋の敷居をまたいで中に入れば、渋沢栄一アンドロイドがこやかに出迎えてくれることでしょう。

**生まれ変わった『中の家』で栄一翁が待っています**

栄一翁も帰郷時に滞在した『中の家』の主屋

来年7月前半に発行される新紙幣の1万円札の顔となる渋沢栄一翁の生地旧渋沢邸『中の家』が、主屋の工事を終えて8月10日(休)にリニューアルオープンします。

『中の家』という名称は、所在地が渋沢一族の家々の中で真ん中に位置したことから、このように呼ばれていたものです。現存する主屋は、この地方の典型的な養蚕農家建物で、栄一翁たちが生まれ育った家の跡地に、妹夫妻が明治28年(1895年)に建てたものです。栄一翁も帰郷の際には、ここに滞在していました。平成22年から市指定文化財に指定されています。

内の見学も可能となり、栄一翁が帰郷の際に滞在した上座敷などを見学できるようにしました。

建物の全体に使用されている立派な梁や柱からも『中の家』の隆盛を見ることができ、中でも上座敷は、特に上質な資材が用いられ、1階で過ごす栄一翁に物音が届かないよう上部に蚕室を設けないなど、多忙の合間を縫って帰郷した栄一翁を、妹夫婦が大切にもてなしたことがうかがえます。

そのほか展示物として、主屋の歴史や『中の家』に関わる人々などを紹介するパネル類や、大河ドラマ『青天を衝け』放送時に市内に設けられた深谷大河ドラマ館内で展示された再現セットも見どころです。

**耐震補強工事により『中の家』内部の見学が可能に!**

今回、耐震補強工事をしたことで、今まで立ち入れなかった建物

**帰郷中の栄一翁が語り掛ける『アンドロイドシアター』**

生まれ変わった『中の家』に設けられた展示の中でも、いちおしは、渋沢栄一アンドロイドと映像



文化財としての価値を保ちながら建物を利用

主屋が建設されて以来の本格的な改修工事を実施

『中の家』の主屋は、建設から120年以上が経過し、耐震性が確保できなかつたため、この歴史的建造物を将来へと継承するためには、耐震性の向上や補修が急務となっていました。そこで市では、令和元年度から設計作業に着手し、令和4年2月に工事を開始、今年4月末に改修が終了しました。改修工事は、文化財として、元



改修後の『中の家』主屋

の形状を残すことを基本とし、明治期に建てた主屋南側は現状保持を行い、昭和58年に増築された北側は、新たな利活用を図るための工事を行うつつ、耐震安全性の向上を図る内容となりました。

また、渋沢栄一アンドロイド設置のための改修・整備、屋根の荷重を軽減するための瓦のふき替えや、外壁改修なども行いました。

事前の調査で発見されたさまざまな遺構

今回の改修工事にあたっては、工事に際して詳しい調査を実施しました。その結果、主屋に眠っていたさまざまな遺構が発見されました。

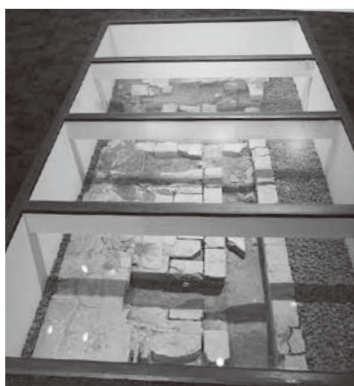
その一つである『煉瓦製カマド跡』は、五つの焚口と灰などをかさ出すための溝が残っていました。さらに、使われたれんがの中には、栄一翁が中心となって設立した日本煉瓦製造(株)で作られたことを示す『上敷免製』の刻印が押

これらは、現状を維持した状態で床下に保存したため、通常は目に触れることはありませんが、今後、企画展示などで紹介する予定です。

寄附の活用などで皆の想いが詰まった『中の家』に！

改修工事を行った『中の家』主屋は、しっくいなどを用いる伝統的な工法で瓦屋根や外壁の細部が復元されました。改修・整備にかかった費用は約3億8545万円で、企業版ふるさと納税により全国の企業からいただいた寄附金も活用されています。

加えて、クラウドファンディングを実施し、全国から屋根改修の寄附金が1425万5千円寄せられました。屋根瓦の裏側には、ご協力いただいた皆さんや、大河ドラマ『青天を衝け』の出演者などの名前が記名され、多くの人の想いが詰まった建物となりました。ふるさとの想いを将来に伝えながら青天に映える、美しい姿の『中の家』主屋をぜひご覧ください。



▲『煉瓦製カマド跡』の展示

されたれんががありました。この『煉瓦製カマド跡』は、そのまま保存され、展示物として見学することができず（左記写真）。今回の調査で出現したものは、この他に、記名入りの束柱、いろり、井戸の桧石などがありました。

関連施設も巡ってみよう！

『中の家』も位置する『論語の里』エリアなどの栄一翁ゆかりの地に立ち寄り、栄一翁が過ごした江戸から昭和初期にタイムスリップしてみませんか？

尾高惇忠生家

栄一翁のいとこであり、学問の師でもあった尾高惇忠の生家です。惇忠や栄一翁らが高崎城乗っ取りなどを計画したと伝わる部屋（非公開）が2階にあります。



所在地 下手計 236 ※『中の家』から徒歩 25分

渋沢栄一記念館

栄一翁ゆかりの資料をたくさん展示しており、栄一翁の生涯について詳しく知ることができます。また、講義室では70歳代の渋沢栄一アンドロイドによる『道徳経済合一説』の講義を受講できます。渋沢栄一記念館で学ん



でから、『中の家』でくつろぐ80歳代の渋沢栄一アンドロイドに会いに行くのもおすすめです。



所在地 下手計 1204（八基公民館内） ※『中の家』から徒歩 15分

誠之堂・清風亭

第一銀行行員の出資により、『誠之堂』は初代頭取である栄一翁の喜寿（77歳）を祝って、『清風亭』は2代目頭取である佐々木勇之助の古希（70歳）を記念して、東京都世田谷区内に建築されたものを移築したもので、どちらも大正時代を思わせる装飾などが見どころです。



▲誠之堂



▲清風亭

所在地 起会 84-1（大寄公民館地内） ※『中の家』から車で5分

『論語の里』ガイドアプリをダウンロードして散策をさらに楽しく！

渋沢栄一記念館の公式まち歩きガイドアプリ、深谷市『論語の里』ガイドは、栄一翁ゆかりの『論語の里』エリアのスポットを中心に、見どころやおすすめコースをきめ細かくガイドします。早速、下記QRコードからダウンロードしてみてください。



『クイズラリー』で楽しく散策



なりきり写真で楽しめる



▲ iOS 用



▲ Android 用